

近所の農家さん



寺澤 和久さん

（増戸地区）
（54）

寺澤さんは、15年前にあきる野市に移住し、お寿司の調理師として市内の回転寿司屋に勤務していた。コロナ禍を経て、2020年49歳の時に自然の中で仕事をしたいと農業を志した。

立川市にある都農林水産振興財団の農業体験のチラシを見て問い合わせたところ、就農の意思があるならと東京都農業会議を紹介された。

初めに、日の出町の農家に話を聞きに行き、さらに農業会議の紹介で瑞穂町のみずほ満天ファームを訪れ、直接の後に研修生として2年間、育苗やトウモロコシ、ネギの栽培などを学んだ。最初は、室内での仕事から外での肉体労働に体がついていかず、思うように動けず周りに迷惑をかけてしまったと話す。

その後、あきる野市の笹本農園で1年間研修を受け、市に認定新規就農者として申請したが、農外からの新規就農で農業の経験値や農業経営の見通しが甘く、通らなかった。さらに立川市の中里農園で1年間研修した。ここでは、指導のもと種まきから出荷まで全て自分で取り組む機会を与えてもらった。この経験から販路をどう確保するかなど経営について考える力を養うことができた、ようやく農業を生業

とすることへの自信がついたと話す。

2024年9月に申請が通り、あきる野市で新規就農者として認定された。

現在は50アールの畑を借りて、地元の特産物であるのらぼう菜やトウモロコシを中心にエダマメ、ネギ、葉物野菜などを栽培する。栽培した野菜はJAの直売所に出荷している。

寺澤さんは、「野菜が一番おいしい状態で出荷でき、お客様に食べてもらえるのが直売所の魅力。満天ファームで食べた完熟トマトは感動するおいしさだった。病気や虫に弱く作りにくくても、食べておいしいと感じる品種を作っていきたい」と話す。

トラクターや道具は縁があった農家から譲ってもらった。先輩農家の苦労や思いが詰まっており、大変な時でも頑張る力をくれる。

現在は、市の後継者部、商工会、JAの青壮年部に所属している。産業祭や視察研修会などのイベントに積極的に参加

して先輩農家と交流し、繋がりもできた。同じ研修先（満天ファーム）の先輩農家にサポートしてもらうなど、人とのめぐり合わせに助けられているという。

今の目標は、一日でも長く農業を続けること。先輩農家からは無理をすると続かない、8割9割の力でやったほうが良いとアドバイスもらった。始めたばかりで、やりたいこともたくさんあり、作りすぎて手が回らず収穫が間に合わなかったり、出荷しても売れ残ってしまった、作れば良いというものではなく、売り先のことを考えながら作ることも分かってきた。

今年は、トウモロコシで「んめえとみぎ」という品種に挑戦する。濃厚な甘みとポリウムが特徴のトウモロコシで、7月下旬に直売所に出荷予定だ。周りに作っている人がいないのでは非食べてもらいたいと思いを寄せた。